

■ 北海道情報大学学内報

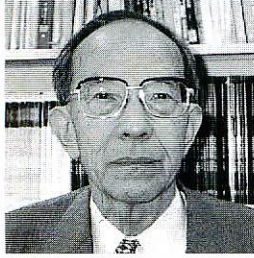


(羊蹄山)

前教養課程 教授 ● 目 次 ●

思い出すことなど	学長 大野公男 ……2	中国へ行きませんか 前教養課程教授 奥平 卓…5
有言実行	前教養課程教授 室木洋一 ……3	就職課より ……6~7
退職にあたり	前教養課程教授 金澤 甫 ……4	主要行事・編集後記 ……8

発行・北海道情報大学
 〒069-8585 江別市西野幌59-2 TEL011-385-4411 FAX011-384-0134



思い出すことなど

学 長 おの の さま お 大 野 公 男

私が大学に入ったのは1948年であった。日本が無条件降伏をした1945年8月15日から3年足らず、戦争の爪痕がまだ大学のあちこちに残っていた。例えば、物理教室のある研究室には、焼け出された教官が家族と共にまだ住んでおられたし、1年生の講義は、物理教室ではなく、法文系の建物の、安田講堂に向かって右、一番近い一階の大教室で行われた。

物理数学は小平邦彦先生が担当された。先生の講義のあるはずの日に、学内の野球大会で物理学科チームが、確か医学部と、対戦することになったので、先生にその旨をお話して休講をお願いしたら、快く了解された。ところが当日ジャンジャン雨が降ったので野球は中止となり、一同は教室の中で待っていた。先生は定刻より30分以上遅れて（これは普通のことである、先生の岳父に当たられる数学の某先生は午前の講義が午後になって始まることのあるとの噂を聞いた）、鉄門から雨の滴る傘をさして入ってこられたが、そのまま法文系の建物を通過して、物理教室に向かわれ、待てど暮らせど講義室には来られない。とうとう当番の私が先生の研究室のドアをおそるおそるノックして、「今日のお講義は？」と言ったら、「野球はやらないのですか？」と怪訝な顔をされた。雨が降ったら講義してくださいと言っておかなかったのは当番の責任である。先生の講義は確か群論の初歩であったが、凄く明快で理解しやすく学生間で評判が良かった。ところが先生は翌49年夏にアメリカのプリンストン高等研究所（アインシュタインが居た）に移られることになった。風の便りでこのことを知った我々は、最後の機会である49年の1学期に、特別に講義をしてくださいとお願いしたところ、これも先生は快く聞き入れて、講義を下されたが、今度の講義はやけに難しかった。試験があって、時間は無制限、どんな書物を参考にしても良いとのこと、近所に下宿していた某君などは、下宿まで本を取りに帰ったりした。臆気な記憶であるが、「これこれの条件を満足する表現を作れ」という種類の問題だったと思う。9時から始まった試験で、私などはお昼近くに降参したが、噂によると、武蔵高校からきて一番で入ったI君は午後3時くらいまで頑張ったという。誰にも正解が判らず、後日先生に伺いに行ったら、「何、そういう表現を作ることが不可能だという証明をすればいいのですよ」と言われて、一同「ダー」となった。我々のクラスでは、先生が船や汽車に乗り遅れたりしないようにとの願いを込めて、渡米のお錢別に目覚まし時計を差し上げたが、

使っただけかどうか。先生は54年に、数学のノーベル賞“と言われるフィールズ賞を受けられる。

力学演習を担当された岩田義一先生の問題は、一番が英語、二番がドイツ語、三番がフランス語、四番がイタリア語で書かれていた。旧制高等学校では、理乙ではドイツ語、理丙ではフランス語をやっていたので、3番までは衆知を集めれば何とかあったが、イタリア語は誰も判らない。幸いクラスで唯一人の女子学生であったTさんは、お父さんがイタリア大使館付きの武官であったため、家に伊・英の辞書があるというので、とうとう彼女に解説をして貰った。

量子力学の講義は山内恭彦先生の担当だった。昭和22年10月に出版された著書「量子力学I」（定価65円、“量子力学を専門の物理学者以外の科学者、技術者にも理解、活用される”ために書かれたと緒言にある）に沿った講義なので、分かり易い名講義だったが、たまには先生のご機嫌が余り良くないときもあった。平面波を展開する公式（確かDiniの公式といった）を最前列に座っていた学生に当たったところ、彼は“知りません”と答えた。「じゃ、立ってなさい、次！」と後の学生に当てられる。忽ち数人が立たされてしまった。小、中、高校を通じて、余り立たされるという経験を当時の生徒、学生はしていなかったと思う。次に座っていたのがTさんである。彼女もと一瞬緊張感が流れたが、先生はそこで曲がって窓際の学生まで行って止まった。山内先生が女子学生に優しいのは、何年かたった後にも一度経験した。当時私は助手で、大学院の試験で、面接する学生の呼び入れ係を仰せつかっていた。一人の学生の試問が終わった後、先生間の意見の交換があり、それが終わると、ドアの脇に座っている私が寒い廊下に出て、凍えながら待っている次の学生を呼び入れるという仕組みである。新潟大学から来たIさんの試問のあと、問題が生じた。当時新潟大学では、量子力学を教えていなかったのだが、彼女の希望は「原子核の理論」をやりたいとのことである。合格させて大丈夫か？慎重論が出て少し時間が経ったとき、山内先生の「科目がないもの、しょうがないじゃないの！」との鶴の一声で決着した。Iさんは大学院を終えた後、アメリカに留学されたから、きっと一人前以上の仕事をされたのであろう。

現在の日本の政治家には、「奇人、変人、凡人」がいるという。半世紀前の大学の先生には、奇人、変人はおられたかもしれないが、凡人はおられなかったような気がする。



◆◆◆◆◆ お世話になりました ◆◆◆◆◆

有言実行

前教養課程 教授 室木 洋一

半世紀に及ぶ教育職も、本学で終らせて戴きます。皆様の暖い温情に浴し、衷心より感謝と御礼を申し上げます。

顧りみれば、昭和の改元に生れ、大事件(昭7の5.15や昭11の2.26事件)並びに大戦争(昭12の日中戦や昭16の太平洋戦)等々、毎年が非常事態の少年期を送り、葉隠れ武士の死生観が身につき「不言実行」を男の美学と心得ていました。さらに、武道競技者の結果がすべてを代辨する純粹性と、以心伝心の思い遣りも寡黙となり、こんな美德も現代には通用せず、暫々誤解され、曲解反撥に悩まされていました。

さて、戦後の大学は、研究と教育が同列と規程されたが、人事は研究を評価しますので、虚偽虚飾の疑心暗鬼が起り、アンバランスの「有言不実行」の様子さえ見え始め、定年前の来学では、先づ、学内の友好親和と「有言実行」の研究と教育の実績に意欲を燃やしたが、平成6年心臓病で倒れ、

4ヵ月の入院加療で気力を費消してしまいました。登学して見ると、若手教員による「教養・基礎教育のあり方」の立派な研究会が出来ていて、人事“予算”カリキュラムの討議もあり、眞に「有言実行」に燃えていました。これが来年発足のメディア学部に影響を与えたと思います。

また大学には、教養教育と専門研究があり、水爆実験などの研究には人類破滅の勢いがありますが、基礎教育と教養文化活動の「人倫の途」を置き去りにせず、両輪の並行によってこそ、眞の學術振興ともなります。人間肯定を核としたメディア学部に期待しています。

以上述べたが、無言からは何も始まらない。本学を去るに当たり、「有言」で充分な論議から実現「実行」する時代と痛感しています。

どうも、いろいろと有難うございました。



◆◆◆◆◆ お世話になりました ◆◆◆◆◆

退職にあたり

前教養課程 教授 金澤 甫

平成6年、通信教育部の発足に伴い、「生物学」担当として着任しました。「通学」では講義を持たず、「通教」での面接授業(スクーリング)・印刷授業を行いました。「通学」の学生諸君と語り合う機会がほとんどないことは残念と思いつつ、年に5~8回の面接授業で南は鹿児島まで全国各地へ出張していました。

当初、本学の通教が従来の大学通信教育とはメディア授業で大きく異なることは無論であるが、面接授業でも同様であろうし、先ずは当たってみてと面接授業に臨みました。1-2回の授業でもろもろの状況が把握できたつもりになりました。想像していた以上に学生の互いの異質性の幅が大きいと感じました。資質や理解力のほかに精神面での少年期・プレ青年期・青年前期が混在し、現代の若者層の意識が展示されているようで、やりがいがある思いに駆られました。いずれの学生も「可愛い」のには変わりありません。身構えてい

たものがなついてくるのは楽しいものでした。

「3日間の講義を通じて先生方の良いところを吸い取りなさい」と言い続けました。試験ばかりを念頭に置いている学生たちには、指導はしますが即物的であるとは言えません。脇にそれた話をする、試験に関係ない?といぶかしげな顔、リラックスになった顔、そうかと眼を輝かせる顔。「脇道の話の方が将来役に立つかも知れないよ」と、未来の日本・世界の社会を担う彼等に「気宇雄大」を願いました。一期一会に近い縁と思いつつ数日間全力投球し、インターバルは体調を整え、教材を改めて再び……。充実した日々でした。

大学人であるからにはその環境のなかでの最善の研究を行うべきであると自覚し、若者にもいつてきたことです。微力ながら野外調査も行えて、私にとって意義深い6年間でした。大学多難の時代、学園の隆盛と教職員の皆様のご健勝を祈り、学生諸君の奮起を望んでやみません。



◆◆◆◆◆ お世話になりました ◆◆◆◆◆

中国へ行きませんか

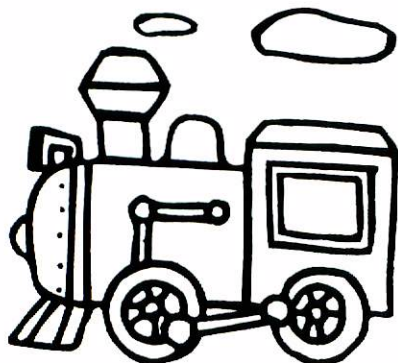
前教養課程 教授 奥平 卓

本学が発足した1989年、私は夏季休暇の期間を利用して中国に行く予定を立てていた。北京語言文化大学で中国語教育法の研修を受けるつもりで手続きも済ませ、費用も払い込んだ。新しい大学にふさわしい新しい中国語のカリキュラムが見出せれば、との思いも多少はあった。だがそれよりなにより、日に月に変貌を遂げるあの国の現実に触れていないと、生きた語学にはなるまいと考えていたのである。現実とは途方もない飛躍を見せることがあるもので、6月4日の天安門事件は、私のもくろみを木端微塵に粉碎してくれた。仕様ことなく来年こそはと腹をくくったものの、物事には潮時があると見えて、翌年からはほとんど時間的なゆとりがなくなってしまった。

中国語履修生の諸君に、中国での語学研修短期留学を呼びかけるようになったのは、このような状況においてであった。もともと他人様を勧誘するのは苦手な性分、ましてや自分が行こうともせず勧誘だけするのだから始

末に悪い。それでも最初の年からひとり、ふたりと誘いに乗ってくれ、南京大学との提携が実現した昨99年には、通信課程も含めてだが10名の参加者が出るまでになった。この間、中国政府奨学金による長期留学生(期間1~2年)の試験に挑戦しようとする諸君も続いて現れた。この試験は大学3年次以上の志願者に対し、第一次は向こうの大学で研究したいテーマに関する中国語作文、第二次は面接口頭試問の形式で行われ、合格者は毎年数十名(北海道からは3~4名ぐらい)にすぎぬという難関である。幸いに玉置先生の親身な指導の御陰で、最近2年間たてつづけに合格者が出るようになったのは、定年を間近に控えた身にとっては、まったく望外のはなむけだった。

本学の中国語教育が本格的な成熟期に入ることへの期待を胸に、お別れの挨拶を申しあげる。



* 卒業するにあたって *

～平成11年度(8期生)～

卒業おめでとうございます。

今年は、厳しい就職状況が続く中、一段と苦戦が強いられた年であったと思います。そんな年にも関わらず、内定を勝ち取った皆さんは、嬉しさもひとしおであったと推察いたします。

この晴々とした顔を見ると、実にホッとするところでもあります。

結局、この年度を振り返ると、就職においては開学以来一番厳しい1年間であったように思えます。

既に新4年生の就職活動もピークを迎えつつあり、出来る限り就職課も学生皆さんの希望に添う就職先を提供できるよう、頑張っているところがあります。

卒業生の皆さん、是非！ 21世紀に向けて北海道情報大学の誇りとプライドを持ち続け、社会をリードするような、そんな人材になって頂きたいと願うばかりです。



卒業

卒業にあたり一言

経営学科 清野 真理子

四年間の大学生活は、あっという間です。自分のやる気一つで、充実したものになるはず！何かを見つけて、前向きに頑張ってください。私は、毎日が楽しかったし良い思い出いっぱい、胸いっぱい。

情報学科 石川 敏之

大学では良き友人に恵まれ、どんなに小さな事でも友人とあれば、大変面白かったような気がします。また、就職課には大変お世話になり、私のような人間でも就職することが出来ました。特に、ほとんどつきっきりで世話を下さった、「糸川さん」有り難うございました。

情報学科 吉田 諭大

本当にあっという間でした。たくさんの人に支えられ、無事に卒業することが出来、感謝しております。みんな！思い出を有り難う！そして「さようなら北海道」！



オメ デトウ

情報学科 今川 恭子

大学生活の中で一番良かったことは、とても良い友達が出来たことです。いつも一緒にいたので、卒業するのが寂しいです。バトミントン部での活動や、スノーボード部での活動も楽しい思い出ばかりです。特にスノーボード部で毎年行っていた合宿は、いろいろな意味ですごく楽しかったです。そして、就職活動の時にとてもお世話になった「桑川さん」本当に感謝しています。



情報学科 秋山 絵里

四年間を振り返ると、大学生活はとても楽しく充実していた。卒業は少しあぶなかったけれど……。サークルに入るなら絶対スノーボード部「Naughy's」オススメ。可愛い後輩がいっぱいいる。そして就職のことならクメカワさんに相談だ。いろいろ助けて頂き有り難うございました。歴史の先生！単位をくれてありがとうございます。これからも頑張ります。



情報学科 森下 俊文

素晴らしい大学生活は、自分たちで作って出していくものだと思います。向日葵みたいに笑っていたら、きっと楽しい毎日になりますヨ。

社会へ飛び立つ皆さん！
大学での思い出を胸に
是非頑張って下さい。
心から応援しております。



編集 就職課 桑 川

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

☆ 法人本部 ☆

◇職員人事◇

4月1日付採用
法人本部付課長 園田 淳一
東京事務所 高橋 祥子
内堀 由貴

☆ 大 学 ☆

◇教員人事◇

退職 (3月31日付)
教授 古室 俊行 教授 佐々木正文
特任教授 奥平 卓 特任教授 金澤 甫
特任教授 室木 洋一
採用 (4月1日付)
教授 井野 智 教授 三本木 孝
教授 吉田 昶弘 教授 若林 久二
助教授 田城 徹雄 助教授 野澤 譲治
講師 齋藤 健司 講師 田中 英夫
講師 谷川 健 特任教授 古室 俊行
特任教授 佐々木正文
併任 (4月1日付)
研究科長 前田 隆 学生部長 立花 峰夫
通信教育部長 長井 敏行

◇事務職員◇

退職 (3月31日付)
総務課長 勝田 孝
教務課長兼大学院課長 寺川 信也
採用 (4月1日付)
総務課長 吉田 三郎 会計課長 中島 章三
会計課 寺尾奈七子
昇任 (4月1日付)
通信教育部 事務長補佐 木田 洋
教務課 入試係長 角谷 有規
配置換 (4月1日付)
教務課長兼大学院課長
加藤 邦雄 (通信教育部 事務長)

◆◆ 1月～3月主要行事 ◆◆

☆ 大 学 ☆

1月4日(火) 新年交礼会
14日(金) 教授会

1月15日(土) 大学入試センター試験
16日(日) 〃
2月6日(日) 一期入学試験
18日(金) 教授会
3月3日(金) 教授会
7日(火) 二期入学試験
10日(金) 教授会
17日(金) 学位記授与式(経営学科 96名、
情報学科 109名、研究科 9名)

☆ 通信教育部 ☆

<授業関係> <10日は除く>
1月7日(金)～11日(火) 後期印刷授業科目試験
1月14日(金)～16日(日) 地方スクーリング(水戸)
1月18日(火)～20日(木) 地方スクーリング(仙台)
1月21日(金)～23日(日) 地方スクーリング(千葉)
2月13日(日)～16日(水) 冬期スクーリング(ニセコ)
<入学選考>
1月21日(金) 第4回入学者選考
2月18日(金) 第5回 〃
3月10日(金) 第6回 〃
3月28日(火) 第7回 〃
<その他>
3月23日(木) 第3回学位記授与式

◆◆ 広報活動 ◆◆

1月1日～31日 地下鉄マルチビジョン出稿
1月12日～18日 地下鉄ポスター掲示
1月17日～26日 江別・札幌高校訪問
2月19日～25日 地下鉄ポスター掲示
2月1日～
3月31日
1月1日～ HTB・STV CMスポット
3月31日

<私立大学通信教育協会合同入試説明会>

2月12日 東京会場 2月13日 仙台会場
2月19日 札幌会場・大阪会場
2月20日 札幌会場・名古屋会場
2月26日 福岡会場 2月27日 福岡会場
3月4日 東京会場・大阪会場
3月5日 名古屋会場・広島会場

編集後記

この三月をもって、長年に渡って情報大に尽くして来られた奥平、室木、金澤の各先生と、寺川、勝田両課長が本大学を去られることになりました。長い間、本当にご苦勞様でした。そしてありがとうございました。まずはこれまでの疲れをとり、悠悠自適の生活を楽しんでいただきたいと思います。併せて、大学

を取り巻く状況はこれから益々厳しくなる折、先生方や両課長のお知恵を拝借しなければならない時が来るかも知れません。その時は是非情報大のために馳せ参じて、我々を叱咤激励していただけるようお願い申し上げます。それにしてもポッカリと空いた穴はいかにも大きい。新しく来られる先生方とも力を合わせ、互いに切磋琢磨してこの巨大な穴を埋めなくては・・・。(U)

北海道情報大学学内報

「ななかまど」第16号

発行日 平成12年4月1日
発行 北海道情報大学
編集 学内報編集委員会